

皆さんに支えられ、 創刊 1000 号

広報おかがきは今回で創刊1000号を迎えました。約56年という長い歴史を歩んでこられたのは、多くの皆さんの支えのおかげです。今回の特集では広報おかがきの歴史をたどるとともに、先日行った広報広聴アンケートの結果をもとに、これからの広報広聴を考えます。

昭和37年～54年

サイズや向きが移り変わる

第1号はタブロイド版でしたが、第2号からは綴じやすいB5版(横置き)に。このころは月1回の発行で、発行日は1日・15日・20日・25日など不規則でした。

第60号(昭和44年8月)からは再びタブロイド版になり、第73号からB5版(縦置き)になりました。



▲第2号(昭和37年11月15日・左)と第73号(昭和46年1月1日・右)

昭和37年10月15日

町報岡垣 第1号発行

▶第1号(昭和37年10月15日)



昭和37年10月1日に町制が施行。記念すべき第1号が発行され、町制施行記念式典の様子などが掲載されました。当時はタブロイド版(新聞紙半ページ程度のサイズ)で、名称は「町報岡垣」でした。

広報の歩み

昭和46年
●町章が決まる



▲町内外からデザインを募集し決定。岡垣の頭文字「オ」がデフォルメされている

昭和45年
●役場新庁舎が野間に完成
●信号機設置



▲当時の役場庁舎。現在とは外見が大きく異なり、1階部分に駐車場が設けられている

昭和37年
●町制施行



▲岡垣中学校の講堂で行われた町制施行記念式典。町内外から200人の来賓が参列

まちの歩み



昭和 60 年～平成 3 年

表紙に初めてカラー写真が登場

第 232 号では、表紙に初めてカラー写真が使われました。発行が元旦ということもあり、美しい日の出の写真を使用。この号を始まりとして、以降の年頭の号はカラー写真が使われるようになりました。第 259 号（昭和 62 年 4 月）からは、町の放送を流していた有線放送親局の廃止に伴い、「お知らせ版」を加えた月 2 回の発行になりました。



▲第 232 号（昭和 60 年 1 月 1 日）の表紙（左）と紙面（右）

昭和 55 年～ 59 年

町報から広報へ

昭和 55 年 4 月から、編集部署が教育委員会から町長部局に。より親しまれる広報紙になるよう、タイトルも「町報岡垣」から「広報おかがき」に変わりました。



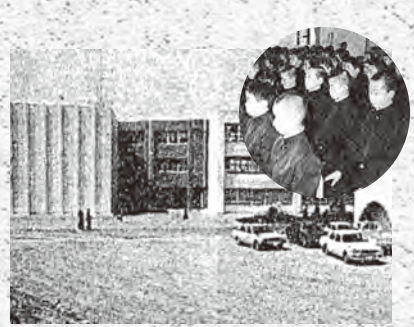
▲第 175 号（昭和 55 年 4 月 1 日）の表紙（左）と紙面（右）



▲昭和 63 年 12 月 6 日に行われた落成式（広報おかがき第 300 号）。駅前道路も整備された



▲町制施行 25 周年を記念し制定（広報おかがき 276 号）。広報おかがきでアイデアが募集された



▲校舎の外観と新一年生の入学式の様子（広報おかがき第 188 号）。校章は岡垣中学校の生徒から募集された

平成4年～8年

広報おかがき、一新

第378号からはサイズがB5版からA4版に変わり、文字が大きく読みやすくなりました。ページ数も増やしてイメージを一新。写真でまちの出来事をお知らせする「まちかどズームアップ」などのコーナーを新設しました。当時の編集後記には、各コーナーの名称や配列に苦労したことがつづられています。また、平成7年6月からは岡垣町イメージづくり計画によるシンボルマークやロゴが完成し、「おかがき」の文字も変更されました。



▲第378号(平成4年3月25日・左)と第455号(平成7年6月10日号・右)

— 当時の担当者の声 —

「皆さんの声を生かした広報を」

広報を作るときは、新鮮な情報を提供できるように、町の情報には常にアンテナを張っていました。

当時はサイズがB5版からA4版になり、紙面の内容もがらりと変わったことで、多くの人から「読みやすくなった」との声をいただきました。その反面、「読みづらい」「分かりづらい」といった意見もとても貴重で、より良い広報紙を作るためには欠かせない要素でした。

これからも、多くの皆さんの声を生かして情報をいち早くお知らせする広報紙づくりに努めてほしいですね。

江崎修 (担当期間:平成3～6年度)



平成9年～16年

ついに500号を突破

500号という大台に乗った「広報おかがき」。町制施行と同時に第1号が発行されてから、約35年が経過しています。この号では500号記念企画として、事前に行った「広報おかがきアンケート調査」の結果を公表しました。表紙には広報担当者が過去2年間に撮影した写真の中から、紙面に登場しなかったものを選んでいきます。

また、この号以降は表紙が常に2色刷りになり、従来より見た目が鮮やかになりました。

表紙(左)と紙面(右)の
第500号(平成9年4月25日)の



▲3万人目の住民には町の特産品が贈られた(広報おかがき第515号)



▲社会福祉協議会の若手職員が詳しく紹介(広報おかがき第502号)



▲一足早く施設を見学した中学生の「一日体験記」が紹介された(広報おかがき第408号)



▲町民参加の歩こう会の様子。約800人が山田峠から野間までを歩いた(広報おかがき第337号)

平成2年

●国道3号岡垣バイパス開通

千号記念

平成 27 年～現在

さらに読みやすい広報紙へ

第 931 号から紙面をリニューアル。デザインや構成が変わりました。健康づくりや子育てに役立つ情報を集めたページを新設したほか、地域で活躍する人や団体を紹介するコーナーなどをさらに充実させました。



▲第 931 号 (平成 27 年 4 月 10 日)

広報おかがきのバックナンバーは町公式ホームページから見るができます



<http://www.town.okagaki.lg.jp/060/020/010/>

平成 17 年～26 年

表紙が常時フルカラーに

第 693 号から、表紙がフルカラーになり、タイトルの「広報」も現在と同じ書体になりました。この号からは、記事がさらに読みやすくなるようさまざまな工夫がされました。



▲第 697 号 (平成 17 年 7 月 10 日)



▲第 693 号 (平成 17 年 5 月 10 日)

— 当時の担当者の声 —

「紙面への興味を誘うために」

広報紙への興味を引くために、インパクトのある表紙を意識し、写真や文字の大きさにメリハリをつけました。今後も住民の声を聞きながら、時代に合わせた広報に進化させていってほしいです。

村上智拓 (担当期間: 平成 14 ~ 18 年度)



「余白がポイント」

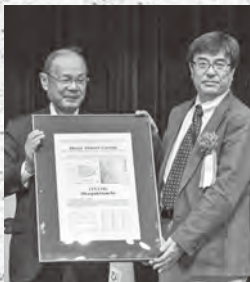
「伝える」から「伝わる」広報へ。内面は余白を十分に取り、皆さんにすっきり・ゆったりと読んでもらうことを意識しました。読みやすさの意味を読者目線で考えることが、心のこもった広報につながるのだと思います。

竹森太陽 (担当期間: 平成 15 ~ 17 年度, 19 ~ 22 年度)



平成 29 年

●「岡垣町」が小惑星の名前に



▲命名式典では小惑星「Okagaki」の命名認定証が授与された



●びわりん&びわすけ誕生



▲町制施行 50 周年記念式典。町の発展に貢献された方々をたたえる記念表彰などが行われた

平成 24 年

●町制施行 50 周年



▲オープニングイベントとして、インターネットを使った催しが行われた(広報おかがき第 669 号)

平成 16 年

●情報プラザの駅開館

広報広聴アンケート調査結果

皆さんの声を明日の広報へ

町の広報広聴活動に対する皆さんの考えを把握し、今後の活動に生かしていくため、広報広聴アンケートを行いました。回答数は356件。励ましの言葉や厳しいご指摘、提案や要望など、これからの広報広聴活動に大変参考となる貴重な意見をいただきました。

調査期間 平成 29 年 11 月 10 日～ 12 月 15 日

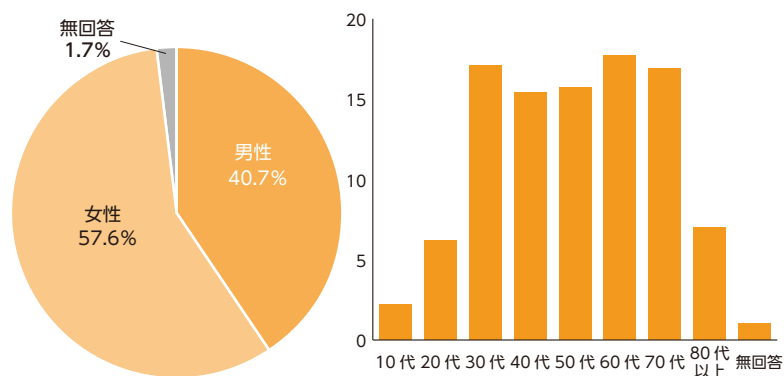
回答方法

● 広報おかがき 11 月 10 日号に掲載している回答用紙を郵送、ファクスまたは役場、中央・東部・西部公民館に設置した回答箱に投函

● 町公式 LINE@ ※友達登録をしている人のみ

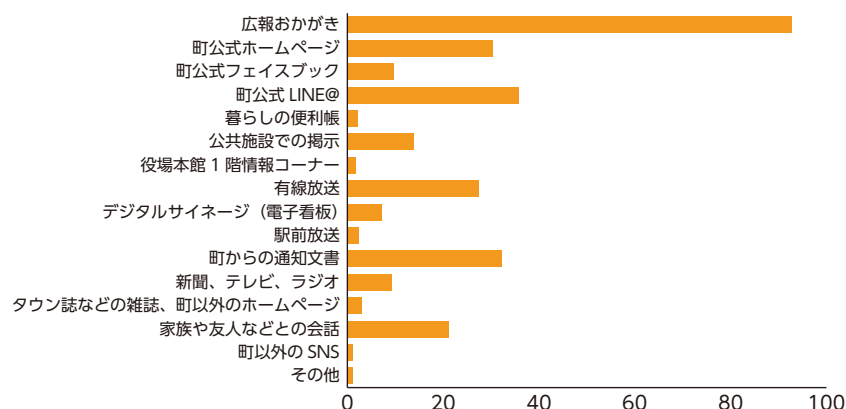
回答数 356 件 (用紙での回答 166 件、LINE@ での回答 190 件)

回答者の情報



行政情報の入手方法について

Q 町の行事やお知らせなどを主にどのような方法で手に入れていますか。(複数回答可)



年代を問わず回答数を集めた広報おかがき

「広報おかがき」、「町公式 LINE@」、「町からの通知文書」、「町公式ホームページ」が上位で、いずれも3割を超える回答でした。また、ほとんどの年代の9割以上が「広報おかがき」と回答。年代を問わず活用されていることが分かります。

ホームページや SNS も多く活用されている

ホームページや LINE@ は 10 代～ 30 代の人々が主に選択。60 代以上の人の選択はほとんどなく、年代によって入手方法に違いが見られました。

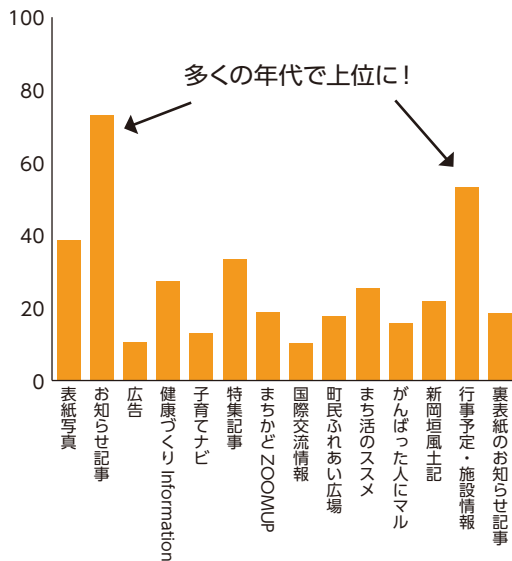




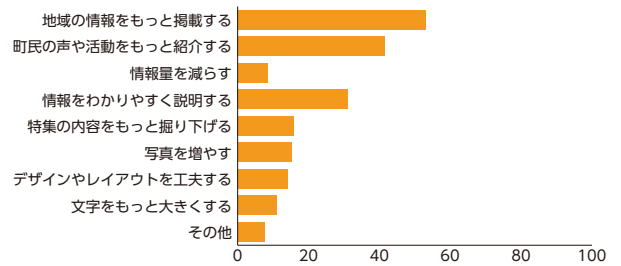
広報おかがきについて

Q 広報おかがきの中で特に興味を持って読む記事はどれですか。(複数回答可)

すべての記事が1割を超えて選択されていますが、年代によって興味を持っている記事に偏りがありました。



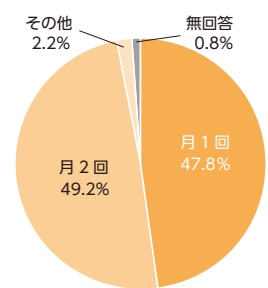
Q どのような点を改善すれば、もっと良くなる・見たくなると思われますか。(複数回答可)



全年代で「地域の情報をもっと掲載する」「町民の声や活動をもっと紹介する」が多く選択されました。

Q 現在の発行回数をどう思いますか。

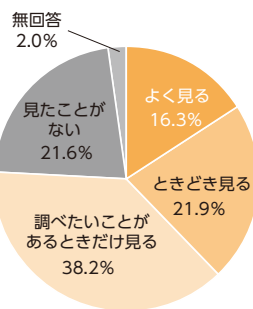
自由回答欄には「月2回は自治区長に配布の手間・負担がかかる」「月1回にすることで経費の削減が期待できる」といった声が寄せられました。



インターネットによる情報提供について

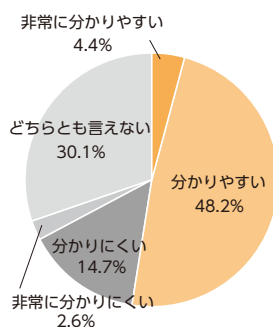
Q 岡垣町のホームページを見たことはありますか。

頻繁にチェックするという使い方よりも、知りたい情報を調べるときに使うといった回答が多く見られました。



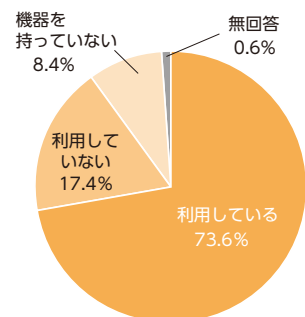
Q ホームページの内容は分かりやすいですか。

「分かりやすい」が「分かりにくい」を上回っていますが、全体の約3割が「どちらとも言えない」と答えているため、改善の余地があると言えます。



年代が上がるにつれて利用者は減少し、80代以上では3割に満たない結果に。自由回答欄には「情報機器を利用できない高齢者のことを考えてほしい」「広報おかがきを一番頼りにしている」などの声が寄せられました。

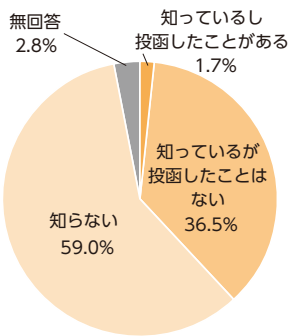
Q パソコンやスマートフォンなどでインターネットを利用していますか。





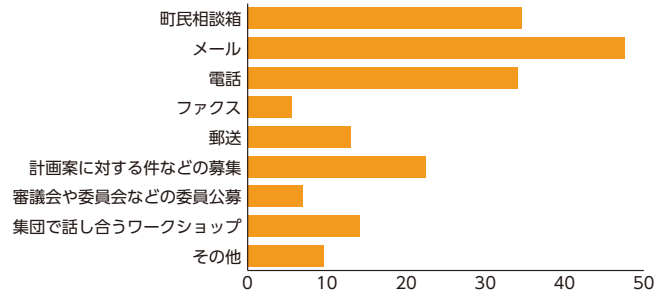
町への意見・提言を伝える方法について

Q 町内の3カ所に町民相談箱があることを知っていますか。



認知度・利用率ともに低いため、相談箱を知ってもらえるよう工夫するほか、意見を気軽に届けられる環境づくりが必要です。

Q どのような方法で町に意見を伝えたいと思いますか。(複数回答可)



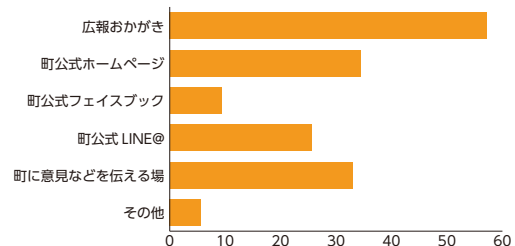
10代～50代は「メール」が6割を超えています。年代が上がるにつれてメールを選ぶ人は少なくなっています。また、今回知った「町民相談箱」を活用したいという声が多く寄せられました。



町の広報広聴全般について

Q 今後、もっと充実してほしいと思うものは何ですか。(複数回答可)

「町に意見などを伝える場」は全年代2割以上の回答で、70代以上は4～5割と非常に多い状況でした。また、自由回答欄でも広報おかがきの充実を期待する声が多く見られました。



自由回答欄

皆さんから寄せられた声

広報おかがきで、町内のお店や自営業者などを紹介してもらおうと、利用しやすくなると思う。

イベント情報は、1人でも多く参加できるようにお知らせしてください。何事も「まず知ること」から始まると思います。

自治区長がすべてのことを有線放送で詳しく教えてくれる。頭が下がるほど感謝している。皆さんに紹介してほしい。

町の職員と一緒にアイデアを出す会(会議・ミーティング・茶会など)があると良いですね。

広報おかがきはレイアウトがいつも同じで読みやすい反面、インパクトに欠ける。

ホームページ・フェイスブック・LINE@のどれからでも、質問・意見・提案ができるのであれば良いと思う。

今回のアンケートのように、いつでも郵送できる書式を広報おかがきに添付すると良い。

後期高齢者です。インターネットはできません。広報おかがきが一番良いです。頼ります。

「町民相談箱」を「町民意見箱」に変えたらどうか。

広報おかがきを毎回楽しみに読んでいます。頑張ってください。

皆さんの意見を町政へ

これからの広報広聴

「皆さんとのコミュニケーションを大切にしたい——。」



広報担当者が取材に行くと、住民の皆さんから「この前の広報の内容良かったね」「〇〇の情報も載せてよ」などと声をかけられます。今回のアンケートでも広報に対するさまざまな声が寄せられたほか、広報広聴活動以外の部分でも町への意見や提案が寄せられました。

今回紙面で紹介できなかった声も全庁的に共有し、今後の町政に役立てていきます。また、これからも町が抱えている課題や地域で起きている問題や出来事をいち早く取り上げ、分かりやすくお伝えし、皆さんとのコミュニケーションを第一に広報広聴活動を進めていきます。

みんなで作る広報紙

いろんな情報を教えてください

「〇〇で優勝したよ」「〇〇を紹介してほしい」など何でもOK！
広報紙は住民の皆さんがつながるコミュニケーションツールです。

素直な声を聞かせてください

「〇〇の特集記事を読みたい」「〇〇をもっと詳しく知りたい」などの声をもとに、さらに愛される紙面づくりを目指します。



広報のこれから

広報おかがきは、でんたつくんの整備とあわせ、発行回数の見直しを検討しています。今回のアンケート結果では、現状のままを希望する声が半数となりましたが、配布にかかる自治区長や組長の負担が課題となっています。

でんたつくんの放送が開始されても町の情報は広報おかがきを基本にお伝えします。皆さんの情報入手の主たる手段である広報紙。住民と行政をつなぐ重要な役割を認識し、今後も内容の充実を図っていきます。また、ホームページやSNSなどその特性を生かした広報活動にも取り組んでいきます。

広聴のこれから

今回のアンケートで、幅広い年代の皆さんが町へ意見などを伝えたいと思っていることが分かりました。しかし、現状は伝えやすい環境ではないようです。

今後は皆さんから一つでも多く声が寄せられるよう、町に対して気軽に声を届けやすい環境を作っていきます。また、寄せられた声を住民サービスやまちづくりに十分生かせるよう努め、その内容を広報おかがぎでお知らせするなど、皆さんとのコミュニケーションを大切に広聴活動に取り組んでいきます。